

# 千曲会館の落成に寄せて

信州大学繊維学部長 工学博士 北条 舒正

創立七十年を契機として新千曲会館が同窓生の力だけで立派に出来上った事はご同慶の至りであります。

“母校と同窓会は車の両輪”と言われた時代のあと学園紛争、教養統合、蚕糸統合と対立する面が多く、理事を長くやってきた私にとって“スープのさめない距離の嫁と姑”の関係を夢見ていました。大学の周辺に民家が立並び始めると非常なあせりを感じていました。幸い同窓会理事長、県教育長等の人事的配置にも恵まれ、第1回生から参加出来る最後の大事業とばかり強い団結の結果この様なものが出来たわけであると思います。

私も学部長にならなければ当然この事業に皆さんと共に全力を注いだ事と思います。でも私が参加するよりはるかにすぐれた成果を上げられた事に心から敬意を表します。

長年の繊維業界の不況下において、今日の様な会館を考えた方がいたでしょうか？ 私は誰にも頼らず同

窓生だけの力でやることを強く主張しました。これの実現は理事長、実行委員長を中心に老若の同窓生が勞をいとわず積極的に行動された事とこれに応える同窓生の熱烈な母校愛の結果であることに間違いありません。私は他人を頼らず自らを信頼して背水の陣で戦う事の偉大さを教えてくれたモニュメントであると思っています。しかしこれからこの大きい財産を何の様に運営して行くかは次の世代の人々の責務になります。

この機会に“母校、千曲会のあゆみ”についての文集が企画されています。真実は直接それにたずさわった方のみしか語れません。貴重なものとなる事を信じます。

学部の困難な時や大発展の時には千曲会のこの偉大な力を貸して下さい。

千曲会の永遠の発展と同窓生の一層のご健闘を祈ると共に新千曲会館建設にご努力された皆様に感謝をこめて重ねて心からの敬意を表します。

## 信州大学繊維学部創立70周年記念 千曲会館落成式典挨拶

社団法人千曲会理事長 母袋 忠右衛門

菊薫る佳節信州大学繊維学部創立70周年記念千曲会館落成式典に当り来賓のご来臨をいただき、会員多勢ご参列を得ましたことは、洵に本会の光栄とするところであります。

千曲会員は信州大学繊維学部卒業、修業の会員で組織され、その数8,800名、現存会員7,650名であります。繊維産業を主に広範な職種職域に活躍しております。交通運輸の発展で世界も狭くなり、ブラジルを初め、世界各国にも多数会員が雄々しく活躍しておる現況であります。

信州大学繊維学部同窓会旧千曲会館は、上田蚕糸専

門学校創立25周年記念事業の一環として建設し、昭和10年11月文部省に寄付採納されました。

爾来星霜40余年を経過して建物は老朽化しましたが、再度千曲会館を学部構内に建設することは、諸般の実情から不可能であります。そこで理事会、総会において繊維学部周辺に千曲会館を建設することに決定いたしました。

昭和52年4月千曲会館建設準備委員会を発足し、候補地の選定、建物構想について成案を得たので第38回総会において記念事業実行委員会を結成し、募金活動に着手いたしました。

土地取得につきましては、長野県および上田市から公益法人である本会の趣旨に賛意を得、多大のご援助ご支援を賜りましたことを、茲に衷心から感謝申し上げます。

建物の設備充実につきましては、関係会社・一般から多大のご支援ご寄付を賜わり、お蔭をもちまして今日落成式典を挙行することになりました。厚く感謝申し上げます。

建物は鉄筋3階建延 995㎡ で堅牢かつ近代様式を採用いたしました。

設備は講演会、講習会を開催し、蚕糸業・繊維工業、ならびにこれに関連する産業の振興に寄与し、また地域の教育文化の向上に裨益する恰好の施設となりました。

た。信州大学繊維学部との連絡につきましては、今回を契機に一層学部の発展に協力いたしたいと考えております。ゼミナール等、学部にご来学の会員は、宿泊設備もありますから、心おきなく利用していただけます。

信州大学繊維学部創立50周年記念事業として発足した財団法人上田繊維科学振興会事業につきましては、今回千曲会館の竣工完成を機に、振興会事業の研究助成、研究表彰、学会講演会開催等活発なる事業ができるように協力して行く所存であります。

ご来臨各位の日頃のご指導ご援助に対し深甚なる敬意を表しますとともに、この上ともご鞭撻ご支援を賜りますようお願い申し上げます、落成式典の挨拶といたします。

## ご 挨拶

母校創立70周年記念事業実行委員長 笠原正巳

かねてその実現が念願されて居りました新千曲会館が予定通り新装なって、11月23日勤労感謝の佳き日に落成祝賀式典を挙ぐるに至りましたことは洵に意義深くかつご同慶の至りであり、これ偏に同窓会員各位並びに関係各方面各位の心暖いご理解と、熱意溢るゝご賛助の賜と心から感謝申上ぐる次第であります。

顧みますれば、母校が明治43年創立されてから昭和55年をもって70周年を迎うると言うことで、第37回（昭和51年11月）の千曲会定期総会に於てこれを記念して、適切な記念事業を計画したらどうかとの提案があり、協議の結果、今の同窓会館は既に老朽化し、且つ同じ大学構内にあることは好ましくないとの当局の意向もあるやに伺って居りますので、この際新たに同窓会館を建設し、同窓会と母校の発展を期す様にとの決議がなされました。その後各方面の意向も取り入れ鋭意構想を練って居りましたところ、第38回（昭和52年11月）の定期総会に於て更にこれが実現化を要望されましたので、早速12月には実行委員会を組織し、慎重審議記念事業の内容及び募金要項を定め、この事業の性格上同窓生の全員参加を目標とし、格段のご協力を願うべく、趣旨書及び依頼状を全国支会長さんを通じ、全会員にお願いしたのであります。同時に55年完成を目標と定められて居りますので、総力を挙げて目的達成の募金活動に着手すると共に、敷地の入手交渉、

建物の設計、工事の具体化につき活動を始めたのであります。

その後の経過につきましてはその都度千曲会報誌上に報告致しましたし、尚別に報告もあることと存じますので詳細は省略させて戴きますが、敷地は幸い学校に隣接した至便の地を県当局、並びに母袋県議の特別の計らいに依り取得、設計は久高建築設計事務所依頼、鉄筋3階建、建坪約100坪とし、工事は宮下組に落札決定をみたのであります。54年9月18日には地鎮祭を挙行、本格的工事に着手したのであります。

工事は極めて順調に、何の事故も、トラブルもなく進捗し、55年5月10日には千曲会事務所を移転するに至り、その後更に内装の整備を進め今日の完成を見るに至ったのであります。

唯、遺憾でありましたのは、思わざる第2次石油ショックの影響にて急速なる建築資材の高騰を来し、当初予算より相当上廻る結果となりましたことと、会館の利用、構想設計等について同窓各位より各様の希望があり、出来得る限りそのご希望に添う様務めたのであります。限られた敷地であり、資金の関係もあり、亦建設後の会館の維持運営の事も当然考慮に入れなければなりませんので、各位のご期待に添い得ず、意に満たぬ点も多々あったかと存じますが、この点何分ご理解賜わりたく存じます。

然し景気も沈滞気味の折ではあり、募金には必ずしも適切な期ではありませんでしたが、第1回卒業生の皆さんも参加出来得るうちにと有り事で、70年と言うやや半端の年に繰上げ計画されたことではありますが、幸い多数の皆さんの賛同を得て茲に完成を見た訳であります。今にして省みますればその後引続き土地の値上り、物価の上昇を続けて居るのをみますれば、あの際決断したからこそ出来上ったのでよかったことと思えます。

それにつけてもこれは全く、実行委員の皆さん始め、各支会長さん、各学級別推進委員の皆さんが卒先万難を排し陣頭に立ちご尽力下され、同窓生各位又これに応えて下さったからに外ならず、今更多勢の団結の力の偉大さを痛感すると共に感謝に耐えません。

尚関係企業の各社に於かれましても産業経済界不振不安定の折にも拘らず、多大のご賛助を賜り、県、上田市当局からも格別なるご高配を賜り、近隣の方々にも工事中大変ご迷惑をお掛け致しましたのにも拘らず、ご理解あるご協力を戴き、尚直接工事に当られた宮下組に於ても誠意を以って工事に当られ、更に同窓であ

る信学会の市川文夫さん、沖繩の緑間武さんからも建築資材始め色々のご援助を戴き、その他各方面の皆さんからの物心両面にわたる心からなるご好意に依るもので茲に改めて厚く御礼申上ぐる次第であります。

この会館は同窓愛、母校愛の結晶であると存じます。幾久しく同窓生のよりどころとなり、友愛の広場として相互の親睦と向上に役立つと共に、母校の発展に、又学界、業界、在校生の各位にも、更に広く地域の皆様にも活用され、学術、文化の向上に資することが出来ますればこれ以上の喜びはなく、又これに依り皆様の好意が報いらる事を念じて居ります。

尚記念事業の一環としてこの記念誌が編集委員の皆様のご尽力に依り刊行することとなりましたのでご高覧戴ければ幸と存じます。

終りに不肖洵に微力であり、その器ではありませんのに実行委員長として曲りなりにもその大役を果すことの出来ましたのは全く皆様の絶大なる心からなる好意あるご援助に依るもので衷心より感謝、お礼を申上ぐると共に、皆様のご健勝と、ご多幸をお祈りしてご挨拶と致します。